



今年最後の月がやってきました。2016年はどんな年でしたか？オリンピックに感動し、スポーツをがんばろうと思った人、北海道新幹線が開通し、色んな所へ旅行してみたいと思った人。今年を振り返れば、来年の目標や夢が見えてくるかもしれません。冬休みが明ければ2017年です。元気な顔で会えることを願っています。

感染性胃腸炎が流行しています

感染性胃腸炎

ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルスなどに感染することで起きる病気です。感染力が強く、予防が難しい病気です。

●感染経路

経口（糞口）感染、接触感染、食品媒介感染（生カキ、ウイルスに感染した生野菜など）があります。乾燥した吐物による空気感染もあります。

●症状

吐き気や嘔吐、下痢、発熱などが起こります。脱水症状も見られます。

●治療法

抗ウイルス薬はありません。脱水症状に対する水分補給や、体力の消耗を防ぐために栄養を補給することが中心になります。

下痢止め薬（止しゃ薬）は回復を遅らせるので、使用しないほうがよいでしょう。



回復しても要注意！

症状が落ち着いても、体からはウイルスが2～3週間程度排出されています。回復しても、便やおむつの取り扱いには、引き続き注意してください。

●予防法

感染の拡大を防ぐために、嘔吐物や便の処理と消毒を行います。

せっけんやアルコールによる消毒では十分ではありません。次亜塩素酸ナトリウムによる消毒や85℃以上1分以上の加熱が有効です。

タオル（バスタオル）を共有しないことも、感染予防のためには大切です。

参考資料：厚生労働省、2012年改訂版：保育所における感染症対策ガイドライン、2012年

インフルエンザQ&A

Q： ワクチンの接種を受けたのに、インフルエンザにかかったことがあるのですが、ワクチンは効果があるのですか？

A： インフルエンザにかかる時はインフルエンザウイルスが口や鼻から体の中に入ってくることから始まります。体の中に入ったウイルスは次に細胞に侵入して増殖します。この状態を「感染」といいますが、ワクチンはこれを完全に抑える働きはありません。

ウイルスが増えると、数日の潜伏期間を経て、発熱やのどの痛み等のインフルエンザの症状が起こります。この状態を「発症」といいます。ワクチンには、この発症を抑える効果が一定程度認められています。

発症後、多くの方は1週間程度で回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。これをインフルエンザの「重症化」といいます。特に基礎疾患のある方や御高齢の方では重症化する可能性が高いと考えられています。ワクチンの最も大きな効果は、この重症化を予防する効果です。

以上のように、インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありませんが、ある程度の発病を阻止する効果があり、また、たとえかかっても症状が重くなることを阻止する効果があります。ただし、この効果も100%ではないことに御留意ください。

参考資料：厚生労働省 「平成28年度 インフルエンザQ&A」